

平成 26 年度(2014 年度) 定時総会 議事次第

招集年月日 平成 26 年 4 月 25 日 金曜日

開催日時 平成 26 年 5 月 26 日 月曜日 1600 より

開催場所 米州開発銀行 会議室

(東京都千代田区内幸町 2-2-2 富国生命ビル 16 階)

会員総数 84 名

出席予定会員数 58 名 (委任状 43 名を含む)

出席予定者 15 名 (石丸泰樹、今村忠雄、桑田正邦、白川光徳、杉浦篤、
鈴木渉、永井和夫、長嶺為泰、細萱恵子、細野豊、松本新治、
吉田憲司、ルイス・カルロス・セウエルッチ、森下鉄夫、田中純一)

議案

第 1 号議案 平成 25 年度(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)
事業報告及び収支決算承認の件

第 2 号議案 平成 26 年度(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)
事業計画及び収支予算承認の件

第 3 号議案 役員選任・選定及びその職務の承認の件

第 4 号議案 その他

以上

平成 25 年度(2013)事業報告

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

1. 一般社団法人移行

2013/3/26 に内閣府へ申請書を提出し、5 月下旬に認可内定を受け、2014 年 3 月 19 日に正式に認可書を受領、4 月 1 日に一般社団法人への移行登記を完了した。

引続き 2014 年 3 月 31 日現在の確定決算に基づき、公益目的財産額の確定作業を 6 月末までに行い、内閣府の承認を受けた後、3～4 年を掛けて消化する予定である。

2. 主たる事務所の移転

主たる事務所を設置している(株)海外移住旅行社の移転に伴い、2013 年 8 月 1 日付で同社の新事務所所在地「東京都港区西新橋一丁目 14 番 9 号西新橋ビル 3 階」への、当協会の主たる事務所の移転登記を完了した。

3. Los japoneses en Bolivia の刊行

2011 年度から 3 年越しで、ボリビア日系協会連合会と共同で取組んできた日本人ボリビア移住 100 周年誌『ボリビアに生きる』のスペイン語版 (Los japoneses en Bolivia) が刊行された。総数 1000 冊のうち、出版社の引受け分 300 冊を除く 700 冊を 2013 年 10 月 3 日にボリビア・ラパスで出版社から受取り、うち 500 冊を約 2 週間掛けてボリビア日本人集住地の日本人会 10 か所を訪問して頒布推奨するとともに、200 冊を日本へ持帰り同様に頒布推奨を開始した。現在までの頒布実績は、ボリビア側で約 200 冊、日本側で 61 冊に達し順調である。

4. 当協会主催文化交流イベント

昨年に引き続き X'mas イベントとして 2013/12/13 に内幸町・米州開発銀行会議室で開催した。会員・非会員を合わせて 40 名を上回る参加があり、本年が F A O (国連食糧農業機関) 指定の国際キヌア年に当たることに因んで、キヌアをテーマにした学者・研究者による講演のほか、プロのフォルクローレ演奏、キヌア料理も合わせて提供し盛況であった。

5. Cantuta 発行

2013・8 に第 21 号を発行した。本来ならば、第 22 号を 2014・2-3 に発行予定であったが、一般社団法人移行業務との関係などで、原稿の依頼・督促が手不足となって発行が遅れており、今後 6 月下旬～7 月初旬頃を目途に準備を進める予定である。

6. 外部交流イベントへの参加

①ボリビア政府主催の国際キヌア年エキスポ 2013 科学セミナー「日本におけるキヌアの可能性」が 2013/5/8～9 に南青山・国連大学で開催された。5・8 のレセプションではボリビア国外務大臣が挨拶され、翌 5・9 のセミナーではボリビア国農業大臣の基調講演や、FAO 日本事務所代表、日本・ボリビア両国のキヌア研究者・栽培者が参加した事例紹介、パネルディスカッションが行われ本協会も招待されて参加した。

2日間を通して150～200名の参加者が有り盛況であった。

②JICAのボリビア派遣者OB/OG主催のオキナワ・ボリビア Fiesta(2013・8・4 沖縄県イオン南風原店)に参加した。沖縄ボリビア協会会長他在沖縄移住関係者や全国から参加したJICAボリビア派遣者OB/OG、ボリビア人留学生多数と交流した。

③ボリビア支援NPO法人/DIFAR主催の「森の音楽祭」(2013・8・11・津市美杉町)に参加し、JICAボリビア派遣者OB/OGや三重県在住のボリビア人多数と交流した。

④サンファン移住地出身の在日日系人の集い(2013・9・15、愛知県知多市・市民会館)へ参加した。台風接近による強い風雨にも拘らず全国各地から約200名の方々が参集され旧交を叙しておられる姿は感動的で、各地代表の挨拶やボリビア仕込みの余興などのイベントで大盛況であった。

⑤在日ボリビア人団体・日本ボリビア人協会(代表・ロサリオ・山田氏)が主催する、Expo Bolivia 2013(2013/11/3 東京・市ヶ谷JICA地球ひろば)を後援するとともに、事前の集客・準備、当日の運営などへ人的・経済的支援を行い、約300人近い来場者があって大盛況であった。

⑥2014/2/15～3/22にかけて、水戸国際交流会館で開催された水戸市国際交流協会主催のボリビア交流イベントに、本協会会員や関係者所有の観光カタログ・ポスター、書籍、民芸品、キヌア・チューニョ・マイス・チアなどを展示用に貸出すと共に、初日と二日目に本協会から各1名が参加した。開催期間中に約300人を超える参加者があり盛況であった。

⑦沖縄からボリビアへの移住60周年を記念して、2014・4・20に沖縄・那覇沖縄タイムスホールで開催された沖縄ボリビア協会主催のBolivia Festaに杉浦専務理事が本協会を代表して参加した。沖縄県からの派遣医師・教員OBや県庁担当部署、それに現地ボリビアからの来日中のボリビア沖縄県人会会長や留学生も参加したシンボジュウムや、地元フォルクローレグループによる演奏・ダンスに、約300人の関係者が参加し、大いに盛り上がった。

7. Chagas病予防検診支援

2013/7/6 三重県津市、7/21 東京代々木公園 Brasil Fiesta, 7/27 群馬県大泉町での検診に、本協会から1～3名が参加して、受診者の案内・会場整理などを支援した。

8. コチャバンバへの日本語教師派遣斡旋

2013・5に本協会会員のボランティア・佐藤葉氏を2年の予定で斡旋し、現地の有志による日本語学習塾「ひのき学校」で活動中である。初年度の1年間は現地日本人会の受入体制等に種々の問題が発生したが、現在はなんとか落ち着き軌道に乗りつつある。生徒も児童生徒から大人まで約30～40人となり、現地の日本人助手のサポートも得て運営されている。

9. 本協会PRパンフレット発行

本来2013・9末を目標に準備を進めていたが、関係者の海外出張などが重なり、大

幅に遅れている。この遅れを挽回して本年 6 月末を目途に発行に漕ぎ着ける予定である。

1 0. 在日ボリビア大使館・領事館関係

昨年 1 月に前任の比嘉大使が離任後、大使の空席が続き、代理大使の方針で、外部からの電話取り次ぎ時間帯が火・木曜日の 8~12 時のみとなっているため、全国に居住する在日ボリビア人や日本人のボリビア渡航者向け領事査証業務が慢性的に渋滞している。

また、日本のマスコミや渡航希望者からのボリビア関係情報照会にも、大使館の対応が十分ではないようで、困惑した在日ボリビア人や、日本関係者から本協会への照会が最近とみに増えつつある。

ボリビア本国政府には、非公式ではあるが様々なルートで善処を求めているが、全く反応が無く、このままでは、日本ボリビア外交関係樹立 100 周年の記念行事等の実現などへの影響が懸念される。

1 1. ボリビア支援チャリティゴルフ大会

本協会の渡邊英樹相談役が、音頭を取られて 10 年以上前から続けられているボリビアンチャリティーゴルフは本年も 2014・2・12 に沖縄のオリオン嵐山 G C で開催された。収益金は沖縄ボリビア移住 60 周年記念事業などに活用される。

また、渡邊氏は個人的に、コチャバンバの聖マルティンの家(代表・野原昭子氏)を支援しておられる。

1 2. 会員動向

上記の様々な活動を行ってきた結果、2013 年度は新規加入会員が、8 名増（個人会員 7 名増、法人維持会員 1 社増）、一方退会が 2 名（個人）有ったため、差し引きで、会員総数は、84 名と前年度比 6 名増加（内個人 5 名増の 74 名、法人 1 名増の 10 社）となった。

目標としていた 100 名には、16 名の不足（個人 14 名、法人 2 名）という結果となったが、この 1~2 年の活動の成果が少しずつ顕現化する兆しもある。内容的に分析すると、会員との個人的繋がりによるもの 3 名、JICA/JOCV のボリビア派遣者 2 名、外部イベント関係者 1 名、内部イベント関係者 1 名。ボリビア帰国者 1 名となり、我々が力をいれてきた主催イベントや、HP、会報などの PR によってボリビアや当協会に関心を持って入会してきたケースはまだまだ少ないというのが実情である。

引続き役員全員で会員の増加へむけて努力を続けていく必要がある。

以上

平成 26 年度(2014)事業計画

(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

I. 基本方針：会員増加活動の強化継続

日本とボリビアの相互理解・友好協力関係促進のため、引き続き積極的に様々な分野の事業活動に取り組んでいく。そのためにも会員増加による資金的、組織的基盤強化が重要である。

前期事業報告のとおり 2013 年度中、会員数は若干増加したものの、当初目標の 100 名には及ばなかった。この 1～2 年の活動の成果が少しずつ顕現化しつつある兆しもあり、引続き役員全員で会員の増加へむけて努力を続けていく必要がある。

従って、今期は、従来の自主企画イベント・セミナーの充実・強化に加えて、会員や外部関係者とのタイアップによる加入増加を検討する。

II. 具体的事業

1. 自主企画イベントの充実・強化

- (1) A エンターテインメント系 (音楽・ダンス、料理・食材、歴史・遺跡・映画・文学)
参加して「楽しい、面白い、為になる」と感じて、ボリビアに関心を持って貰えるように上記の各分野を組み合わせた企画とする。

女性・若者・シニア層を対象とし、時期は 12 月中旬の X'mas, とする。

- (2) B ビジネス系 (現地事情についての最新情報提供と視察—鉱業・農業・観光業)、
自力で現地情報収集や視察が困難な地方企業・中小企業を対象として、実務に役立つ相談・コンサルティングを内容とした企画とする。時期は 10 月又は 1 月頃とする。

2. 会報 Cantuta の充実

発行回数を増やし、年 3～4 回に増やし、内容・デザインのレベルアップを目指して、発行・編集体制を強化するため、外部のセミプロ編集者の協力の可能性も検討する。

3. ホームページの充実

更新を毎月最低 1 回とし、内容・デザインのレベルアップを図る為、外部のセミプロ運営者の協力の可能性も検討し、検索時の常時トップ表示を目指す。また、アクセス状況の分析を定期的に行い、その増加促進策として、維持会員の宣伝広告やホームページへのリンクなども合わせて検討する。

4. 日本人ボリビア移住 100 周年誌『ボリビアに生きる』スペイン語版 “Los japoneses en Bolivia “の国内頒布促進

引受総数 200 冊の 100%頒布完遂を目標に、ラテンアメリカ関係の学者・研究者、スペイン語が堪能な在日ボリビア移住帰国者、その配偶者や子弟、ボリビア人留学生・研修生などへの周知 PR を促進する。

当協会ホームページ・PR パンフレットへも常時、案内を掲載する。

5. 日本とボリビアの文化、産品、観光等様々な分野の相互理解・交流に資す各種イベント・活動に積極的に協力・参加し、また関係諸団体との連携タイアップを強化する。

(1) Latin America 関係外部関係者との連携タイアップの強化

ボリビア関係の音楽・ダンス、レストラン、食材、映画、旅行などの業者やグループとタイアップし、本協会が後援するその業者の有料イベントや営業行為について、業者やその社員及び参加者が本協会の会員（維持会員・個人会員）になることを条件に、イベントや営業行為の当日参加者へ料金の一部を還元する。業者にとっては販促、本協会にとっては会員獲得につなげ双方にとってのメリットを実現する。

(2) ボリビアを含むラテンアメリカ関係組織・団体のセミナー・イベントへの参加
情報収集及び、連携を目的に、積極的に参加・協力する。

(ラテンアメリカ協会とその加入各国協会、海外日系人協会、JICA, JETRO, JATA FOODEX, 日本ボリビア人協会、沖縄ボリヴィア協会、サンファン帰国者の集い、ラテンアメリカ文化交流協会、在日ボリビア大使館およびラテンアメリカ各国大使館、ラテンアメリカ関係学会など)

6. 在ボリビア日系社会及び在日ボリビア社会との協力、交流の維持・促進

(1) ボリビア日系協会連合会と各地日本人会やボリビア社会との交流継続

本協会あるいは先方団体の役員等がボリビアまたは日本を訪問する際は、できるだけ会合の機会を設け交流を深めるとともに、来日のニーズや意志を打診しその方法を検討する。

(2) 在日のボリビア帰国者、ボリビア人との交流・ネットワーク強化

集住地域各地を積極的に訪問し、本協会の活動をPRすると共に、相互の交流促進を支援し、併せて会員加入を勧誘する。

(3) Chagas 病の感染防止と治療のための検査・検診への支援

行政や在日ボリビア人団体が主催する活動に対する三浦左千夫氏のグループが行う支援について側面協力する。

7. 日本、ボリビア相互の理解、友好に資する事業、活動等に対し、斡旋等によりできるだけ支援する。

(1) コチャバンバ日本語学校への日本語教師派遣斡旋

現在派遣中の佐藤葉氏の後継者人選を、現地の受入れ状況などを勘案しつつ検討する。

(2) マスコミのボリビア関係取材への協力と活用

情報提供などで協力することの見返りに、放送・放映・紙面掲載時に本協会の協力を得た証拠として、本協会の名称、電話番号、@を載せることを求める。

(3) キヌア研究会立ち上げへの支援

官民学業・消費者連携の研究会のメンバーとなり、他の産出国であるペルー・エクアドルの関係者とも連携して、この研究会が早期に軌道に乗るように支援協力する。

(4) 在日アンデス・アマゾン関係資産保全への支援協力

山形県鶴岡市にあるアマゾン民族館・自然館の実質的存続へ向けて、本協会の関係会員とも協力して側面支援する。

以上

(別紙資料)

第3号議案 役員選任とその職務の承認の件

(1) 下記の理事・監事の任期が、本日平成26年5月26日をもって任期満了となるので同日付をもって重任させることとしたい。

(候補者) 理事：12名(登記簿登記順)

(氏名) (法人法上の職務)

- 1、 小川 秀樹
- 2、 大貫 良夫 代表理事
- 3、 国本 伊代
- 4、 細野 豊
- 5、 杉田 房子 代表理事
- 6、 今村 忠雄
- 7、 嘉手刈 義男
- 8、 長嶺 為泰 業務執行理事
- 9、 白川 光徳 代表理事
- 10、 細萱 恵子 業務執行理事
- 11、 遅野井茂雄
- 12、 杉浦 篤 業務執行理事

(候補者) 監事 2名

- 1、 金木 克公
- 2、 永井 和夫

(2) 辞任される松崎治夫理事の後任理事として、本日平成26年5月26日をもって

- 13、 八代倫明氏を選任したい。

(3) 会長、副会長、担当理事の選定の件

各理事の担当職務については下記のとおりとしたい。

1. 会長 白川光徳
2. 副会長 大貫良夫、杉田房子
3. 専務理事 兼 総務担当 杉浦 篤
4. 常務理事・会計財務担当 長嶺為泰
常務理事・会報編集・広報担当 細萱恵子
5. 理事・会報編集・広報担当 細野豊
理事・関係団体担当 遅野井茂雄 国本伊代
理事・情報担当 八代倫明 今村忠雄 、
理事・組織担当 小川秀樹、嘉手刈義男、

顧問 林屋永吉、 相談役 渡邊英樹、 事務局 吉田憲司

同 意 書

一般社団法人 日本ポリビア協会

会長 白川 光徳 殿

第 1 号議案 平成 25 年度(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

事業報告及び収支決算承認の件

事業報告については、白川会長より、また、収支決算については長嶺理事よりそれぞれ報告があり、次いで永井監事より監査報告が行われた。(事業報告と収支決算書を別紙添付)

第 2 号議案 平成 26 年度(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

事業計画及び収支予算承認の件

事業計画について白川会長より、また、収支予算について長嶺理事よりそれぞれ説明が行われた。(事業計画と収支予算書を別紙添付)

第 3 号議案 役員の選任・選定とその職務の承認の件

白川会長より下記のとおり提案された。

- (1) 理事の松崎治夫氏から、出身会社・住友商事(株)の人事異動により平成 26 年 4 月 1 日をもって辞任し、後任に八代倫明(ノアキ)氏を充てたい旨の要請があったので、これを承認したい。
- (2) 別紙資料に記載の理事 12 名、監事 2 名の任期が、新定款 25 条により本日この理事会終了後に引続き開催される定時総会の終結をもって任期満了となるので、上記の八代氏と合わせて、理事 13 名、監事 2 名を定時総会の承認を前提に役員として選任したい。
- (3) 新定款 22 条第 2 項に基づき、理事会として、上記 (2) で選任される理事のうち、

代表理事して、東京都杉並区高井戸東一丁目 10 番 23 号

白川 光徳

代表理事として、東京都世田谷区砧一丁目 28 番 16 号

大貫 良夫

代表理事として、東京都八王子市元本郷町一丁目 28 番 3 号

杉田 房子

専務理事として 東京都八王子市散田町二丁目 68 番 13 号

杉浦 篤

常務理事として 神奈川県鎌倉市台三丁目 6 番 15-705 号

長嶺 爲泰
常務理事として 東京都千代田区一番町 16 番地 4 フォーシーズンズ「グランデ」
一番町 402 号
細萱 恵子

をそれぞれ選定したい。

(ア) 上記が承認された場合の各理事の職務について、下記のとおりとしたい。

1. 会長 白川光徳
2. 副会長 大貫良夫、杉田房子
3. 専務理事 兼 総務担当 杉浦 篤
4. 常務理事・会計財務担当 長嶺為泰
常務理事・会報編集・広報担当 細萱恵子
5. 理事・会報編集・広報担当 細野豊
理事・関係団体担当 遅野井茂雄 国本伊代
理事・情報担当 今村忠雄、八代倫明、
理事・組織担当 小川秀樹、嘉手刈義男、
顧問 林屋永吉、 相談役 渡邊英樹、 事務局 吉田憲司

第 4 号議案 その他

下記のとおり報告が行われた。

1 会員の入退会状況について

下記のとおり承認したい。

平成 25 年度については、

入会 8 名（大濱直子、桑田昌邦、鈴木渉、坪井創、牧野翔、
松村英明、中部全人、G & G 加藤謙三）

退会 2 名（川名千鶴子、野呂智恵子）

差引 6 名増となり、本日現在の会員総数は、84 名となる。

2 その他

上記 4 件の議案に関する報告・説明・提案について、理事全員一致で同意致します。

平成 26 年 5 月 26 日

東京都杉並区高井戸東一丁目 10 番 23 号

理事 白川 光徳 会長印

東京都世田谷区砧一丁目 28 番 16 号

理事 大貫 良夫 認印

東京都八王子市元本郷町一丁目 28 番 3 号

理事 杉田 房子 認印

東京都八王子市散田町二丁目 68 番 13 号

理事 杉浦 篤 認印

大阪府大阪市北区万歳町 4 番 12 号

理事 小川 秀樹 認印

東京都杉並区井草五丁目 12 番 21 号

理事 国本 伊代 認印

神奈川県横浜市青葉区あかね台二丁目 10 番 31 号

理事 細野 豊 認印

東京都杉並区高円寺南五丁目 27 番 20 - 104 号

理事 今村 忠雄 認印

沖縄県那覇市天久一丁目 21 番 7 号

理事 嘉手苺 義男 認印

神奈川県鎌倉市台三丁目 6 番 15-705 号

理事 長嶺 爲泰 認印

東京都千代田区一番町 16 番地 4 フォーシーズンズグランデ

一番町 402 号

理事 細萱 恵子 認印

千葉県柏市つくしが丘五丁目 7 番 14 号

理事 遅野井 茂雄 認印

東京都世田谷区深沢五丁目 18 番 21 号

理事 八代 倫明 認印

以上